



# 泉サービス株式会社東京本社

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼4-9-16 TEL 047-454-5751

## 働きやすい職場環境づくりと健康管理

### 事業の概要

■沿革 平成3年4月、住友銀行の特例子会社としてスタート。  
銀行後方事務を主体として業務を拡大、現在、知的障害者も採用して事務的な仕事に就労している。  
平成3年4月に14名の障害者を採用、その後の業務拡大とともに、平成8年11月には知的障害者も採用し、現在は20名の障害者を雇用している。

■従業員数 25名 うち障害者20名（平成11年12月31日現在）

視覚障害者	聴覚障害者	肢体不自由者	内部障害者	知的障害者	精神障害者	その他
—	6 (6)	12 (8)	—	2 (2)	—	—

( )内は重度障害者

■事業内容 銀行業務の請負、手形・小切手帳の作成、マル優書類の整理保管

### 改善の概要

#### 改善の背景

日本障害者雇用促進協会、他関係機関を見学し、バリアフリーの設備改善を行った。しかし、実際に障害者が就労してから問題に気づくことも多かった。  
次のような問題点があった。

#### 下肢障害者

- ・車椅子の使用者は、高いところ（150cm位）の物の出し入れが困難。
- ・すり足で歩行する人には、点字ブロックが邪魔になる。
- ・かがめない人は、床にあるものを拾い上げることができない。
- ・車椅子使用者はスロープの途中で止まりにくい（出入口で歩行者と衝突の危険あり）。
- ・車椅子使用者は、一般の作業（机）台では低く、足が入らない。

## 聴覚障害者

- ・聴覚障害者についての理解が不足していた。聾・難聴・言語障害など、障害の程度はさまざまであることが分かった。
- ・手話を使える健聴者がおらず、採用面接や入社説明等は手話通訳を依頼していた。
- ・社内にBGMを流していたが、補聴器使用の難聴者は耳障りに感じていた。
- ・聴覚障害者は自分自身の立てる音が聞こえないため、ドアや戸棚をボタンと閉めても雑音の程度がわからない。健聴者からは機嫌が悪いと誤解された。
- ・挨拶などの声をかけても聴覚障害者には分かってもらえず、相互に無視されたと勘違いがあった。

## 知的障害者

- ・挨拶などの意思表示が困難で、職場生活に不安を感じた。
- ・工作上、必要な漢字が読めなかったり、枚数を数えたりできず、教育の必要を痛感した。
- ・能力と適性の発掘と訓練、指導が必要。

## 健康管理

- ・病気による休暇、遅参、早退が多く、業務ローテーションに支障が生じた。

### 改善の内容

- 下肢障害者、聴覚障害者、知的障害者に対するきめ細かな改善
- その他健康管理等、障害者が働きやすい職場環境の実現

### 改善の詳細

#### 下肢障害者に対しての改善

##### 1 電動車椅子（リフト付）を導入

移動しやすく、高い場所の出し入れがしやすくなった（2台・190万円）。

##### 2 便利な道具を導入

床に落ちた書類や筆記用具などを自分で拾えるようになった（約2千円）。

##### 3 出口に安全確認用のミラーを設置

安全確認の上、スロープを下りることができるようになった（約1,000円）。

##### 4 作業台の改善

作業台に高さ5cmの補助台をプラス。車椅子が入れるようにした。



リフト付き電動 車椅子



## 2 福利厚生上の配慮

勤務時間は5時間以上の選択制を可能とし、厚生施設利用、従業員持ち株制度など、福利厚生に配慮。

## 3 教育・指導

マンツーマンによる新人社員教育、情報化時代に対応するためのパソコン教育の実施。

## 4 新種業務の拡大

外国硬貨の計算機の特別改造、パソコンと接続した仕分け業務の導入等による新種業務の拡大。

## 5 コミュニケーションの向上

業務担当予定表の表示、社員の企画による各種親睦行事の実施、障害者関係記事の情報提供等。



業務担当予定表

## 改善の効果

### 1 下肢障害者の作業効率がアップ

- 施設設備の改善により、他人に依頼する必要がなくなった。気分的に楽になり、効率アップにつながった。

### 2 社員が手話を習得し、聴覚障害者への理解が深まる

- 手話勉強会などで楽しみながら手話を習得し、聴覚障害者に対する理解が深まった。
- 簡単な日常会話については、大部分の社員が使えるようになった。

### 3 知的障害者の職場生活や知識に大きな変化

- 表情が明るくなり、趣味などの会話や挨拶ができるようになった。
- 宿題を続けた結果、銀行支店名の8割以上を理解できるようになった。
- 家庭との連絡日誌からも社会的な成長が見られる。

### 4 健康管理の改善により、欠席・遅参が大幅に減少

- 社員の意識が向上し、休暇、遅参、早退（障害による通院は除く）が年々、減少。

内容 \ 年度	平成9年	平成10年	平成11年
休暇	204日	86日	79日
遅参	19日	6日	11日
早退	52日	21日	11日

### 5 その他

- 障害者の雇用設備を評価され、日経ニューオフィス審査委員長特別賞受賞。